



日本仏教看護・ビハーラ学会第21回年次大会によせて

ご挨拶

宮城県丸森町の水害現場を訪れ、復興イベントで買い込んだお土産を手に台東区山谷、光照院様を訪れたのは、2019年の晩秋でした。道に迷って遅れて到着したわたくしを、当時副住職であった吉水岳彦上人は、温かく迎えて下さいました。

素敵な印度料理をごちそうになり、まさにその晩開催された台湾の敬虔な仏教徒のみなさまとのオンライン勉強会に参加させて頂いたのも、何か目に見えない力に支えられてのことだったのではないかと思います。その直後から世の中は新型コロナウイルスのパンデミックに飲み込まれていくわけですが、世の様々なつながりが断たれるなかで、より一層オンラインでの仏教の学びは尊く胸に響きました。お忙しい吉水上人を新潟での講演会やシンポジウムにおよびできたのも、コロナ禍であったこそかもしれません。

2023年の春、長年勤めた新潟県立がんセンター新潟病院を去り、長岡西病院ビハーラ病棟に赴任する直前に、山谷を再訪することができました。吉水上人に連れられ、昼の山谷の街を歩くことができました。戦後の高度成長期、日雇い労働者のドヤ街として知られた街は、数多くの独居高齢者が住まう福祉の街へと変貌していました。どこまでも自由なホスピスきぼうのいえ、訪問看護ステーションコスモス、泪橋ホール、人種も、宗教も、ありとあらゆる壁を越えてすべての方が弔われる光照院の共同墓を拝見し、寺院、僧侶を中心として人間の「生きる」を支える協働が息づいているこの地で本学会の年次大会が開催されることを夢想しました。

夢は実現するものですね。いのちを削るようなハードスケジュールの中、山谷大会を実現に導いて下さった実行委員のみなさまへ心から御礼を申し上げます。本大会の会場は、1771年3月4日、杉田玄白、前野良沢、中川淳庵らが「解体新書」を作成するために刑死者の腑分けに立ち会った小塚原の回向院と、日本を代表する観光地でありながら地域の福祉活動の拠点であり続ける浅草の浅草寺です。時空を超えたスケールが感じられます。山谷の街を案内して下さるエクスカーションあり、山谷に今暮らす皆様の参加するシンポジウムあり、台湾の歌姫による仏教歌のライブあり、人生の二日間彼の地を訪れるだけの価値満載と確信いたします。

どうぞ皆さま、ご友人、親戚縁故総動員お誘いあわせの上おいでください。

日本仏教看護・ビハーラ学会
会長 今井 洋介

日本仏教看護・ビハーラ学会 第21回 年次大会

日 程:令和7(2025)年6月28日(土)12時00分~6月29日(日)16時00分

会 場:6月28日 会場:南千住回向院 〒116-0003 東京都荒川区南千住5丁目33-13

:6月29日 会場:浅草寺福社会館・五重塔 〒111-0032 東京都台東区浅草2丁目3-1

問合せ先:日本仏教看護・ビハーラ学会 第21回年次大会実行委員会事務局

〒111-0022 東京都台東区清川1丁目8-11 瑞雲山無量寿寺光照院内

E-mail: vihara2025@gmail.com

大会長 挨拶

日本仏教看護・ビハーラ学会 第21回 年次大会
大会長:吉水 岳彦
(光照院 住職)

2025年は、第二次世界大戦から80年の節目の年です。戦後に育ったわたしの世代は「戦争の世紀」と呼ばれた20世紀の過ちを繰り返すことがないようにと、幼いうちから平和の大切さを教えられ、21世紀こそ平和な世界がやってくるものと、漠然と信じていました。ところが、実際に21世紀を迎えてみると、地球温暖化に起因する天変地異によって大きな災害が頻発するなか、世界各地で戦争や軍事クーデターが起こり、貧困や差別に苦しむ人も絶えません。また、21世紀初頭に普及し、全世界をつないだインターネットの発達には、その利便性から世界経済に新たな発展をもたらした一方で、匿名で他者を傷つけて排除したり、偽りの情報で社会を混乱させたりするなど、新たに深刻な問題を生じています。21世紀に入って四半世紀をふり返るだけでも、平和とは程遠い世界の現実を痛感させられ、深い悲しみを覚えずにはいられません。いったいどうすれば、真に平和な世界が実現されるのでしょうか。わたしはその手がかりが、今大会の開催地であり、かつて戦争で焼け野原となった東京の復興を支えた日雇い労働者の街、浅草山谷地域のケアのあり方のなかにあると思うのです。

その手がかりとは、いかなる過去を持つ人も、どれほど困難な状態の人も、どんな思想や文化、信仰をもつ人も、等しく受け入れられ、共に生きられる場の構築です。あらゆる争いは、思想や文化、宗教、生き方の異なる者など、違和感を覚える他者に傷つけられまいと、身を守ろうとして起こります。すなわち、自分のあり方や正しさに近い者たちを守るために、違和感のある他者を自分と同じ考えに矯正するか排除しようと考えて傷つけあうのです。だからこそ、多様な他者であるお互いを、ありのままに敬い尊重し合うことで、お互いを受け入れていく真の包摂的社会を求める姿勢が、平和な社会の実現に求められます。これは言葉にするのは簡単ですが、実際に行うことは極めて困難なことです。それでも、その実践に取り組まざるを得なかったのが、浅草山谷地域に暮らす多様な人たちのケアに取り組んだ人々なのです。

浅草山谷地域は、江戸期には小塚原処刑場や遊郭として知られる吉原、被差別民を取りまとめていた弾左衛門の居住地等があり、歴史的にも差別や貧困などで苦しく、生き難い人たちが集まる場所でした。庶民の娯楽であった落語の中には、そんな苦界の悲しみを笑い飛ばそうとする力強さがあり、処刑場や吉原に関連する人たちを題材にした作品も残されています。大会初日には、まずこの地域の歴史的な特性を来場者と共有すべく、処刑される人たちのために一心に念仏した土手の道哲と吉原の人気花魁であった二代目高尾太夫の登場する落語を鑑賞します。続く「最期まで支えるケアのありかた—宗教の垣根を超えた協働実践」と題するシンポジウムでは、現代の浅草山谷地域のケアの実際を、ケア実践者や当事者をお招きしてみなさんと学びます。浅草山谷地域には、かつて日雇い労働で暮らしてきた人の他、ホームレス状態の人、身寄りのない人、かつて犯罪に手を染めた人、さまざまな障がいをもって生きる人など、まことに多種多様な人がいらっやいます。また、元日雇い労働者の中には、もともと家族との関係が希薄で、病気やケガ、加齢等によって働けなくなった人も

多く、単身独居の高齢者となる方も少なくありません。浅草山谷地域では、そんな方々のために 20 年以上前から訪問型のケアが発達し、単身独居の高齢者たちを支える仕組みが自然と発達してゆきました。少子高齢化で単身独居の高齢者が増える世の中で、大いにモデルとなる地区になっています。

この地でケアを行おうとする者たちは、そうした人々に向き合うべく、自分たちもあらゆる職種や法人、宗教等の違い等の垣根を超えて連携協働しています。苦しむ者を前に、宗教の隔たりなど関係ありません。そして、ケアを求める人が、どんな生き方をしてこようと関係なく、精一杯生きてきたその人を尊重し、共に最期まで支え合いながら生きようと働いています。

ちなみに、テーマにある「寄り添なき者」とは、単純に住まいや家族のない人という意味ではありません。自尊心や尊厳など、自己の生きることを肯定する拠りどころを見失っている者、信仰や哲学といった“いのち”の根源にある“スピリチュアリティ”を豊かに育み支える存在に出遇えていない者等を含みます。ケアは相互作用の場となる性質上、ケアを行おうとする者は、対象者から何らかの影響を受けることになります。表面的には、ケアを施す者と施される者の関係のように見えて、実はケアを施す者が多くのことを学び得させてもらうことになります。この点にこそ、ケアを通じて共に支え合い、「共に生きる」を大切にする浅草山谷地域的なケアの特徴も立ち現れてくるでしょう。ケアにおいて何を与えるかではなく、何を得させていたきてきたのか、ケア実践者や当事者たちの語りから学ばせていただきたいと思います。

そして、大会2日目のシンポジウム「生活困窮者の看護ケアに仏教が果たした役割—浅草寺病院の歩みから」では、戦前から現代に至るまで、仏教の大慈悲の精神と社会福祉法人立の病院の理念のもとに行われてきた仏教的な医療や看護ケアのあり方について学びます。戦後まもない浅草山谷地域のなかでも最下層といわれた廃品拾いの労働者たちの集落、通称「蟻の町」の人々も、病気になった時に頼りとしたのは浅草寺病院でした。ホームレス状態の人にも、触法者にも、苦しむ者があれば、信仰の違いにも関係なく、等しく尊厳を大切に接し、時には無償で診療する仕組みまで構築した浅草寺病院の慈愛に満ちた仏教的看護ケアのあり方には、現代も学ぶことが多いと思います。

宗教の地平ともいえる無差別平等の慈愛の花を、医師も看護師もソーシャルワーカーも宗教者も患者も利用者も、みな自分のところに咲かせてこそ、あらゆる“いのち”がやわらかな心で生き、安心して死を迎えられる、真に平和な世界の実現に向かうのでしょうか。今大会では、浅草山谷地域の歴史やケアの実践の特殊性を学ぶことを通じて、大会来場者すべてがここに慈愛の花の種を得てお帰りいただきたいと考えています。医療や福祉、宗教の専門職の方のみならず、浅草山谷地域のケアにご関心を持つすべての方にお越しいただきたいと願っております。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

合掌

主催：日本仏教看護・ビハーラ学会 第 21 回年次大会実行委員会

協力：社会慈業委員会(ひとさじの会)

大会プログラム

大会テーマ「慈愛の花を咲かせましょう—寄る辺なき者、共に生きる」

6月28日(土)大会 1日目 会場 南千住回向院

エクスカージョン 山谷巡り

10:00 南千住回向院 集合

12:00 解散

12:00 受付開始——南千住回向院 受付

13:00 開会式——南千住回向院 本堂

挨拶 吉水岳彦 大会長

13:05 基調講演——南千住回向院 本堂

テーマ そこが陽のさす場所

演者 今井洋介 日本仏教看護・ビハーラ学会 会長

13:35 落語——南千住回向院 本堂

演目 はんごんこう 反魂香 演者 やなぎやさんごろう 柳家三語楼師匠

14:05 休憩

14:15 シンポジウム1 ——南千住回向院 本堂

テーマ 最期まで支えるケアのありかた——宗教の垣根を超えた協働実践

パネリスト 的場由木 (NPO 法人ふるさとの会)

平野智子 (NPO 法人訪問看護ステーションコスモス)

油井和徳 (認定 NPO 法人山友会)

当事者 A さん (路上生活経験者)

司会 高瀬頭功

16:25 総会——南千住回向院 本堂

18:00 懇親会——遠州屋

20:00 ラートリカサンガ——遠州屋

会員総会にご出席ください

大会1日目 6月28日(土)16:25 から、第21回の会員総会を開催します。

会員各位はご都合をつけてご出席くださいますようお願いいたします。

欠席される場合は、委任状の提出をお願いいたします。

6月29日(日)大会 2日目 会場 浅草寺福社会館および五重塔信徒室

9:00 受付開始——浅草寺福社会館

9:30 個人発表(報告 15分:質疑応答 10分) ——浅草寺福社会館

12:00 休憩(弁当注文者は引換) ——浅草寺福社会館

13:30 シンポジウム2 ——浅草寺五重塔信徒室

テーマ 生活困窮者の看護ケアに仏教が果たした役割——浅草寺病院の歩みから

パネリスト 久松佐恵子(浅草寺病院ソーシャルワーカー)

鈴木裕介(明星大学)

マディーン啓子(元浅草寺病院医師)

司会 吉水岳彦

15:40 閉会式——浅草寺五重塔信徒室

挨拶 得丸定子 次年度大会長

吉水岳彦 大会長

16:00 終了

会場の案内

6月28日 南千住回向院 〒116-0003 東京都荒川区南千住5丁目33-13

アクセス JR 南千住駅から徒歩5分 東京メトロ日比谷線 南千住駅から徒歩3分

つくばエクスプレス南千住駅から徒歩5分

6月29日 浅草寺福社会館・五重塔信徒室 〒111-0032 東京都台東区浅草2丁目3-1

詳細はこちらから URL: https://www.senso-ji.jp/info/social_welfare_center.html

アクセス 東京メトロ銀座線 浅草駅から徒歩8分 つくばエクスプレス浅草駅 徒歩10分

東武スカイツリーライン 浅草駅から徒歩8分 都営浅草線 浅草駅から徒歩13分

浅草寺福社会館は、浅草寺北側言問通り沿いにあります。

↓「浅草寺福社会館 QRコード」↓



研究発表の申し込み

研究発表演題募集要項

【口演発表】

発表日 大会 2 日目 6 月 29日(日) 9:30~11:55

1)発表資格

- (1) 発表される方は、共同研究者も含めて「日本仏教看護・ビハーラ学会」の個人会員、学生会員、団体・法人会員のいずれかであること(発表申し込み時に、入会申し込み及び年会費の納入手続きがあれば可能です)。
- (2) 発表される方は、Microsoft Word に対応した形式(.docx / .doc)で予稿集用原稿を作成し、年次大会事務局の **E メールアドレス(vihara2025@gmail.com)**に添付書類として、**2025年3月21日(金)17:00までに提出され、発表採否審査委員会において採択された会員。**
- (3) 年次大会で発表される研究においては、下記の基準を満たすものとします
 - ① 人を対象とする研究を年次大会等の集会で報告する場合、原則、研究倫理審査を受審していることとする。
 - ② 審査を不要とする研究を年次大会等の集会で報告する場合、原則、研究倫理審査免除の申請をしていることとする。

上記①②は、2024年9月10日理事会にて承認され、会員への公表が既に行われおります。

ご不明の点は、年次大会事務局までお問い合わせください。

2)発表演題と予稿集用原稿の提出

- (1) 口演発表は、大会 2 日目 6 月 29 日(日)9:30~11:55 の間を予定しています。
1演題につき、15分間の発表、10分間の討論、計25分間を予定しています。なお、演題数に応じて時間を変更する場合がありますので、予めご了承ください。
- (2) PC、プロジェクター(Windows11 Pro: Microsoft® PowerPoint® 2021)を用意します。**当日は、こちらの機器とソフト以外は使用できません。**ご注意ください。発表当日は、各自データをUSBに入れ持参し、発表前に会場備え付けのPCへ保存した上で発表を行ってください。
- (3) 当日配付資料がある場合には、事前に **50部程度**を用意してください。当日の印刷には対応できませんので、予めご準備の程、よろしく申し上げます。
- (4) 発表申し込みにあたっては、**演題名・所属・氏名と発表要旨の全てを 40 字×42 行の A4 用紙 1 枚以内にまとめた予稿集用原稿を**、大会事務局宛て(E-mail:vihara2025@gmail.com)に提出してください。なお、予稿集用原稿のフォーマットにつきましては、次項をご確認ください。

3) 予稿集用原稿フォーマットについて

(1) 演題、氏名、所属などについて

演題

—副題—

氏名:

所属:

⇒1行あける

本文はここから、書き始めてください。

(2) 原稿用紙の企画

- ・用紙サイズ:A4縦
- ・枚数:1枚(演題・所属・氏名・図表・グラフを含む)
(当日配布資料が必要な場合は50部印刷してください)
- ・余白:Wordにて余白を「標準」にあわせてください。
(上余白35.01mm、下・左・右余白30mm)
- ・文字数:文字数42文字×行数40行
- ・図表・グラフ・引用文献のフォントサイズは自由

(3) フォントについて

- ・演題は 遊明朝12ポイント太字・センタリング
- ・副題は 遊明朝10.5ポイント・センタリング
- ・本文は 遊明朝10.5ポイント
- ・予稿集用原稿は、原則として、目的・方法 結果 結語の順でお書きください。

(4) 利益相反について

- ・利益相反(COI)の有無、ある場合は具体的な内容を記載してください。

(5) 研究倫理審査について

- ・研究倫理審査の受審機関と承認番号を記載してください。
- ・なお発表や予稿集用原稿作成においては、個人やその家族等のプライバシーの保護に際し、個人やその家族等が特定されないよう十分な倫理的配慮をお願いします。

上記にはずれたものは受理いたしかねますので、ご注意ください

(6) 原稿提出期限

令和 7(2025)年 3月21日(金)17:00 必着

4)申し込み先

日本仏教看護・ビハラー学会 第 21 回年次大会実行委員会事務局

E-mail vihara2025@gmail.com

件名に【日本仏教看護・ビハラー学会 演題申し込み(お名前)】と明記してください。

データファイル名には演題および氏名を入れて下さい。

5)発表の採否とプログラム・予稿集への掲載

- (1) 発表の内容が本学会の趣旨にそぐわない場合には、発表をご遠慮いただく場合があります。採否については、発表採否は、審査委員会(大会実行委員会)において決定いたします。
- (2) 採択結果は 4月下旬までにお知らせいたします。
- (3) 発表演題が採択された場合には、申し込みの際に提出された予稿集用原稿を、原則そのまま『日本仏教看護・ビハラー学会第 21回年次大会プログラム・予稿集』に掲載いたします。
誤字・脱字がないよう十分にご確認ください。

大会参加の申し込み方法

1) 参加方法

- ・大会の参加方法は、対面のみです。会場の席数に限りがありますので、当日席がない場合は当日申込(支払い含む)の入場をお断りする場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ・エクスカージョンへの参加人数は、30 名程度までとします。申し込み方法は後日、ご案内いたします。

2) 大会参加費

会員事前申込/当日受付	5,000 円/6,000 円
非会員事前申込/当日受付	6,000 円/7,000 円
学生会員事前申込/当日受付	2,000 円/3,000 円
学生非会員事前申込/当日受付	3,000 円/4,000 円

- ・学部生・大学院生の方は、受付時に学生証の提示をお願いいたします。

3)エクスカージョン

6月28日(土) 10:00 から 山谷巡り
集合: 南千住回向院

4)懇親会

6月28日(土)18:00~20:00
正会員・支援会員・非会員 5,000 円(税込)
学生会員・学生非会員 1,000 円(税込)

5)ラートリカサンガ

6月28日(土) 20:00から

懇親会后、昨年度に続いて懇親会会場でラートリカサンガを開催します。「ラートリカサンガ」とは、「夜を徹し、みなが自由に意見を述べるができる共同体」を意味しています。様々な職種、世代、立場を超えて参加者が集う「語らいの場」です。各自の体力に応じて自由に出入りできます。テーマについて語らうもよし、これまでの講演やシンポジウムに関して議論するもよしです。いのちが生気を失いかけている今、大いに対話

しようではありませんか！

参加費:カンパ歓迎(学生は無料)

6)昼食

6月29日(日)のみ、お弁当の予約を受け付けます。代金は、1,200 円(お茶付き)です。

浅草寺周辺には飲食店がたくさんありますが、年次大会開催日は週末につき観光客で混雑することが予想されますので、事前の準備をお勧めします。

※当日の弁当の受付はいたしません。

7)宿泊

宿泊は、各自で手配をお願いします。

参加申し込み方法

- 1) 年次大会の参加申し込みは、Google フォーム
(<https://forms.gle/WUjFbau7XW9eewSG9>) で事前登録した上で、郵便振替口座への振り込みをお願いします。
- ・参加を希望する場合は、下記の URL、QR コードから Google フォームにて必ず申し込みをお願いします。

QRコード ↓



URL: <https://forms.gle/WUjFbau7XW9eewSG9>

・会員の皆様には、本ニュースレターに大会参加申し込み専用の郵便振替用紙(青:払込取扱票)を同封しています。通信欄の参加希望される事項について、「印」をご記入の上、必要経費とともにお申し込み下さい。(振り込み手数料は各自ご負担ください。)

・郵便振替口座への振り込みをもって、申し込み完了となります。

・郵便振替用紙を使わずに振込をされる場合は、以下の口座に振り込んでください。

<ゆうちょ銀行からの振り込みの場合>

記号番号 00980 - 4 - 196310
口座名 日本仏教看護・ビハーラ学会大会実行委員会

<ゆうちょ銀行以外からの振り込みの場合>

銀行名 ゆうちょ銀行
支店名 ○九九店(ゼロキユウキユウ店):(店番099)
預金種目 当座
口座番号 0196310

※年会費の振込口座とは異なりますので、ご注意ください。

・振り込みをされました大会参加費・懇親会費・弁当代は、ご自身の都合によるキャンセル及び変更等による返金はできませんので、あらかじめご了承下さい。

2) 参加申込(振り込み)締め切り

令和6(2024)年5月30日(金)

- ・ 上記の期日までに、郵便振替口座への振り込みをお願いいたします。それ以降は、申し込みを受け付けません。
- ・ どうしてもGoogle フォームにて参加の申し込みが難しいという方は、大会事務局宛て (E-mail: vihara2025@gmail.com)にご連絡ください。

日本仏教看護・ビハーラ学会 第21回 年次大会 実行委員

大会長:吉水 岳彦 大正大学非常勤講師、淑徳大学非常勤講師、 ひとさじの会事務局長、光照院住職	実行委員(あいうえお順) 油井 和徳 認定 NPO 法人山友会副代表 伊藤 奈津子 淑徳大学准教授
事務局長:高瀬 顕功 大正大学准教授、ひとさじの会代表、法源寺副住職	岡村 毅 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センタ ー研究所研究副部長、NPO 法人自立支援セン ターふるさとの会理事
事務局(あいうえお順) 家永 真由美 ひとさじの会 金田 昭教 ひとさじの会、浄土寺住職	菊地 大樹 NPO 法人訪問看護ステーションコスモス ボラ ンティア
工藤 量導 大正大学専任講師、ひとさじの会 澤 奈生子 ひとさじの会、寿永寺	熊澤 利和 高崎経済大学教授 後藤 奈津美 淑徳大学助教
会計 今井 英之 ひとさじの会、長昌寺住職	藤谷 章恵 淑徳大学助教 堀 眞哲 国内国外教育支援団体テラ・ネット代表 松野 瑞光 法源寺住職

事務局だより

- 本学会では、新規会員の方をお待ちしています。会員におかれましては、お知り合いに本学会の存在をお知らせいただき、入会をお誘いいたしますようお願いいたします。
- 会員の方へ
2025 年度に入り次第、令和7(2025)年度 郵便振替用紙(払込取扱票)を発送いたしますので、「年会費」のお振込をお願いいたします。なお、2 年に渡って年会費が振り込まれていない方につきましては、会員の資格を失いますので、ご注意ください。
- やむを得ず本学会から退会をご希望の方は、E-mail、または葉書にて、本部事務局までご連絡ください。特に書式はございません。
- 住所・勤務先・職位などに変更のある方、学生会員で個人会員への移行の方は、お名前・会員番号を明記の上、E-mail、または葉書にて、本部事務局宛にご連絡ください。

会員著作紹介について

本会の学会誌「仏教看護・ビハーラ」に紹介する「会員著作」を募集いたします。
2023～2024 年に出版された著作がある会員の方は、是非、学会事務局までご一報ください。
どうぞよろしくをお願いいたします。

入会・退会の連絡先・お問い合わせ先

日本仏教看護・ビハーラ学会 事務局 E-mail: vihara.office@gmail.com

日本仏教看護・ビハーラ学会 令和4年度～7年度 理事・役員名簿

会長: 今井 洋介 (長岡西病院ビハーラ病棟)

理事: 谷山 洋三 (東北大学) ※学会誌編集担当/編集委員会
若麻績 敏隆 (善光寺白蓮坊) ※広報担当/広報委員会
伊藤 奈津子 (淑徳大学) ※研究推進担当/研究委員会
熊澤 利和 (高崎経済大学) ※倫理審査担当/倫理審査委員会
藤谷 章恵 (団体会員代表: 淑徳大学看護栄養学部) ※教育担当/教育・研修委員会
郷堀 ヨゼフ (淑徳大学) ※庶務担当/事務局長
今村 達弥 (ささえ愛よろずクリニック)
奥井 一幾 (神戸松蔭女子学院大学)
野田 隆生 (華頂短期大学)
大河内 大博 (願生寺/佛教大学)
吉田 厚子 (さっとさんが願生寺 訪問看護ステーション)
中島 小乃美 (佛教大学)
大久保 明子 (新潟県立看護大学)
小柴 千鶴 (さんむ医療センター)
吉水 岳彦 (光照院/大正大学)
樺澤 賢正 (支援会員代表: 龍蔵寺/長岡西病院ビハーラ病棟)

監事: 森田 敬史 (龍谷大学)、佐藤 雅彦 (浄心寺/大正大学)

名誉会長: 田宮 仁 (前 淑徳大学大学総合福祉学部・大学院総合福祉研究科 教授)
藤腹 明子 (淑徳大学看護学部 客員教授)

学会設立顧問: 大井 玄 (東京大学 名誉教授)、鷹司 誓玉 (善光寺大本願 法主)
故 水谷 幸正 (佛教大学 元学長)

※順序不同

日本仏教看護・ビハーラ学会事務局
〒260-8701 千葉県千葉市中央区大巖寺町200
淑徳大学 千葉キャンパス 郷堀研究室内
TEL. 043-265-7331
E-mail: vihara.office@gmail.com <https://www.jabnvs.org/>